

命を守るデジタル防災プロジェクト事業（福島県会津若松市）

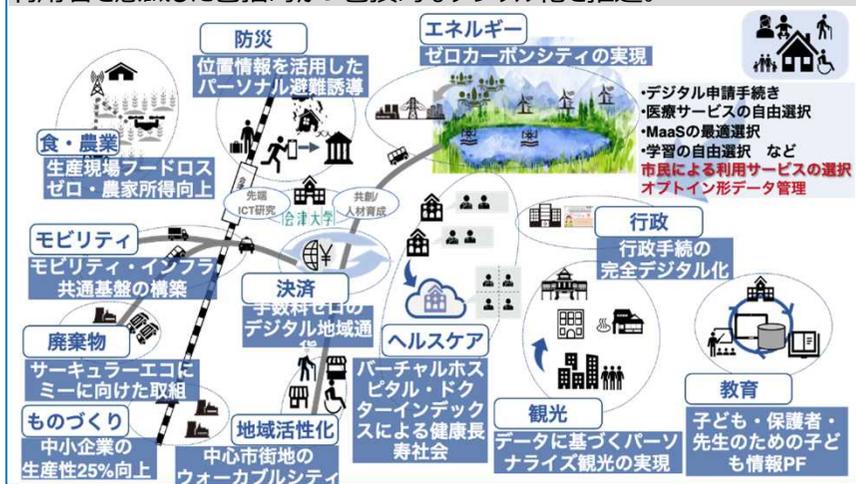
災害時における避難所生活において、その質を高めることが日常復帰時にも重要な要素であり、避難者の多様な状況、ニーズ等を把握し、適切な避難者支援につなげるため、情報取得範囲、分析範囲、共有範囲や種類等について検証する。具体的には、位置情報を活用した防災アプリ「マイハザード」に、避難所管理ソリューションである「Qualtrics」及び、要支援者における体調や服薬情報と連携し、サービス及びシステムの双方の観点で実証を通じた検証を行い、防災DXを推進する。

目標（KPI）

目標	KGI/KPI	2030年目標値
市民参加率の向上	地域ID登録者数	50,000ID
地域の活性化	公示地価の伸び率	地方平均比+7%
持続性の確保	経常収支比率	90%未満

実行計画

『スマートシティ会津若松』の発展・深化を図るため、本市の伝統・歴史・文化・景観などを生かしながらデジタルを活用することで、利便性・持続性等を向上させるブラウンフィールド型のスマートシティを推進。12の分野において、多様な利用者を意識した包括的かつ包摂的なデジタル化を推進。



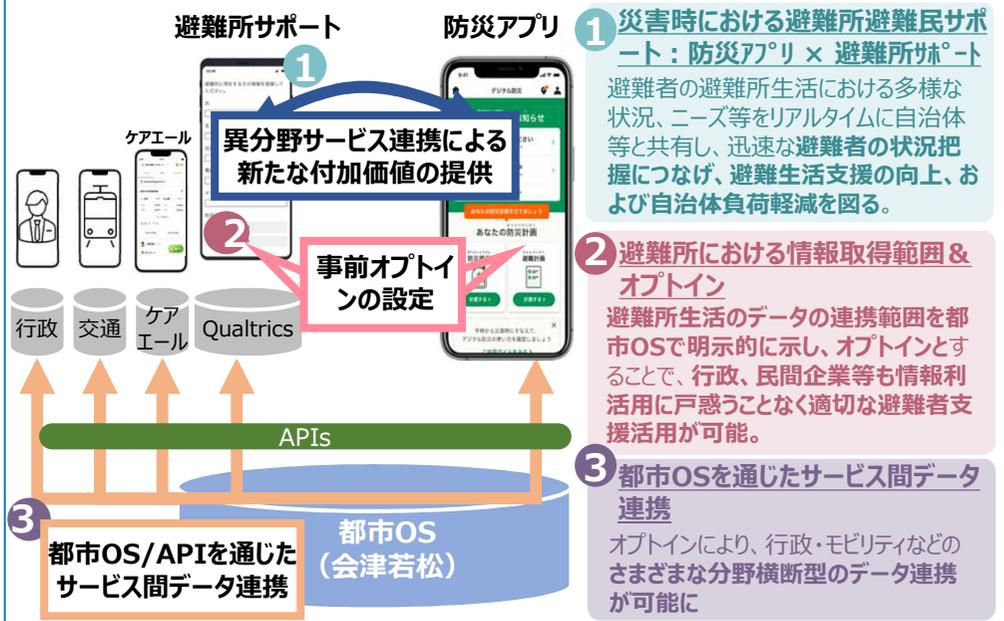
体制

会津若松市におけるスマートシティ実行計画全体の推進体制は以下の通り。本事業は、防災WG関連主体で構成した会津デジタル防災協議会で実施



実証内容

マイハザード及びQualtricsを連携し、①災害時における避難所避難民サポートを実現しつつ、②避難所における情報取得範囲&オプトインと③都市OSを通じたサービス間データ連携に関する知見を蓄積するための実証を行う



スケジュール

R3年度までにマイハザードは実装完了。R4年度でのマイハザードとケアエールとの連携による要支援者支援に加え、Qualtricsとの連携による避難所周りの機能アップデートを実現するとともに、R5年度以降も防災分野と他分野の連携による機能向上を推進



スマート・コミュニティ・モビリティ実証調査（つくば医療MaaS）（茨城県つくば市）

科学技術が集積する「筑波研究学園都市」において、AIによる交通渋滞の事前予防、顔認証による公共交通の利便性向上、環境・生体情報をセンシングするパーソナルモビリティの実装等を推進。
これにより、**自動車依存度が高い地方都市において、「高齢者や障害者など誰もが安心・安全・快適に移動できるまち」の実現**を目指す。

目標（KPI）

KPI項目	現状値	目標値
日常利用する交通手段が自家用車である人の割合	85.8% (2019年度)	83.5% (2024年度)
高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると感じる人の割合	31.4% (2019年度)	34.4% (2024年度)
スマートシティの推進に係るプロジェクトの利用者満足度	- % (2019年度)	47.2% (2024年度)

実行計画

①交通流の最適化による**渋滞等事前予防**

②公共交通の利用促進に向けた**運行サービスの充実**

③公共交通利便性向上による**高齢者の外出促進**

④ラストワンマイルの安心・安全な**移動手段の提供**



<将来像>

- ✓ 顔認証技術を用いたモビリティサービス
- ✓ 公共交通機関の**運行最適化**
- ✓ 各種社会サービスへ展開された**顔認証キャッシュレス決済・施設受付**
- ✓ 交通移動弱者への**移動支援**

スーパーシティ（つくばスーパーサイエンス構想）の取組（道交法等の規制緩和等）と一体的に実施

実証内容

交通弱者に対する**新たなモビリティの確保**

顔認証による事前受付から会計までの手ぶらのワンストップ手続



項目	内容	効果	実施主体
実証①	病院バス車内での顔認証による事前受付（つくばみらい市内～筑波学園病院間）	受付待ち時間解消	筑波学園病院、NEC
実証②	顔認証により、総合受付に加え、検査室や各診療科での受付を省略	病院滞在時間の短縮	筑波学園病院、NEC
実証③	顔認証を活用した後払い会計システムの導入	診察後の会計待ち時間の解消	筑波学園病院、NEC
実証④	ペDESTリアンデッキ上の小型モビリティ等による自動運転走行	都市部における移動手段確保	三菱電機、アイサンテクノロジー、TierIV、損保ジャパン、KDDI

体制

つくばスマートシティ協議会

- 会員数 75企業・団体（企業65、大学等8、自治体2）
- 事務局 つくば市

分科会

当該分野の課題解決に貢献する技術・サービスを保有する会員で構成



スケジュール

～2021年度実証

- ・渋滞未然防止策の現場実証
- ・適正な運行ダイヤ等の検討
- ・顔認証によるMaaSの実証
- ・パーソナルモビリティの現場実証

2022年度～実装（2025年度まで）

- ・渋滞未然防止策の実行（2024年度）
- ・新たな公共交通運営形態等の検討（2023年度）
- ・顔認証による各種サービスの実装（2022年度）
- ・パーソナルモビリティの実装（2024年度）

スマート・ターミナル・シティさいたま（埼玉県さいたま市）

駅を核としたウォークブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境（スマート・ターミナル・シティ）の形成に向け、生活利便性向上・まちの賑わい形成を支えるマルチモーダル・インターモーダルな移動環境・交通サービス体系づくりを軸に、3D都市モデルや各種サービスデータの統合・分析による施策効果の可視化等を通じて、多様な地域プレイヤーを巻き込んだ産官学民連携によるモビリティサービス普及、都市空間・環境整備に向けた合意形成等を推進する。

KPI（目標）	現況値	目標値
まちなかの滞留人口・時間	（取組の中で計測）	（取組の中で計測）
交通利便性への満足度	57.8%（R2）	64.0%（R7）
自動車分担率（市全体）	26.8%（H30）	現況からの減
グリーンポイント発行量	0ポイント	（取組の中で計測）

実行計画

駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」

「市民のウェルビーイングな暮らしを実現するスマートシティさいたま」の実現に向け、駅を核としたウォークブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。

施策①〈モビリティサービスの充実〉により、健康で環境にやさしい脱クルマ依存型生活行動を支え、地域回遊性を高めるとともに、

施策②モビリティと地域経済活動が連携した〈ライフサポート型MaaSの構築〉を進め、

施策③各種サービスデータや都市データを活用した〈スマートプランニングによるウォークブルな都市空間・環境の形成〉を促進する。

【先行モデル地区】

- 中心市街地型モデル**（高密度エリア・商業業務地ゾーン）
→大宮駅・さいたま新都心駅周辺地区
- 郊外住宅地型モデル**（中高密度エリア・住宅地ゾーン）
→美園地区

先行モデル地区での実践・成果を市内他地区等へ横展開

実証内容

過年度実証成果等も踏まえつつ、施策①～③に関するR4実証1～3を展開。

【R4実証1】AIオンデマンド交通サービスの地域共創民間実装モデルの構築（郊外住宅地型モデル）

○AIオンデマンド交通サービスの実装モデル構築に向け、地域ポイントを活用したダイナミックプライシング、まちに還元されるインセンティブの獲得を目標にした脱炭素貢献可視化による交通行動変容の促進等を試行・検証。

【R4実証2】シェア型マルチモビリティと既存公共交通の連携ポートの実証（中心市街地型モデル）

○国道と連携したモビリティポートの設置により、シェアサイクルと路線バスの乗り継ぎを促すとともに、効果検証からバス需要と連携したポート配置を検討。

【R4実証3】スマートターミナルシティの実現に向けたスマートプランニング実施（中心市街地型モデル）

○バス等の滞留状況の解析から、時間帯でバース数等を変動させる「スマート駅前広場」のプランニングに活用。

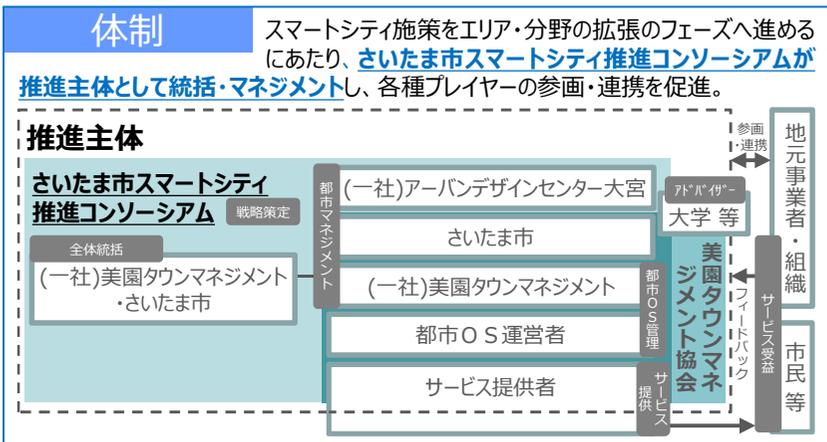
○建物形状等を反映した3D都市モデルを用いた環境評価から、ウォークブル空間形成施策へ活用。



地域ポイント（アプリ）を活用した利用促進

国道（歩道橋下など）にモビリティポートを設置

駅前広場のバス・その他車両の滞留状況を解析



スケジュール

市内先行モデル地区で実証・実装。市内他地区・他都市へ展開。

施策	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
①モビリティサービスの充実			シェア型マルチモビリティ実証実験（中心市街地） AIオンデマンド交通サービス実証実験（郊外住宅地）		先行モデル地区での実装 市内他地区・他都市へ
			モード間連携実証 地域経済連携実証		
②ライフサポート型MaaSの構築					先行モデル地区での実装 市内他地区・他都市へ
③スマートプランニングによるウォークブルな都市空間・環境の形成					先行モデル地区での実装 市内他地区・他都市へ
				スマートプランニング高度化（3D都市モデル活用含む） 空間・都市基盤等の計画	

2022年度大丸有リ・デザイン実証事業（東京都千代田区）

Smart & Walkableのコンセプト実現に向け、自動走行ロボットや自由なグリーンスローモビリティ等の新たなモビリティ（以下、自動走行ロボット等）等と、人が、公的空間で共存するリ・デザインの都市像の実現を目指す。

目標（KPI）

・実証事業における利用者アンケートによる満足度：50%以上

【参考（試算値）】・ロボット導入による経済効果：18億円/年規模

実行計画

「エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション」モデルの実現

■対象区域のビジョン

1. 時代をリードする国際的なビジネスのまち
2. 人々が集まり賑わいと文化のあるまち
3. 情報交流・発信のまち
4. 風格と活力が調和するまち
5. 便利で快適に歩けるまち
6. 環境と共生する持続可能なまち
7. 安全・安心なまち
8. **新技術やデータを活用するスマートなまち**
9. 地域、行政、来街者が協力して育てるまち

■対象エリア：



■区域の発展的課題

Smart & Walkableの実現

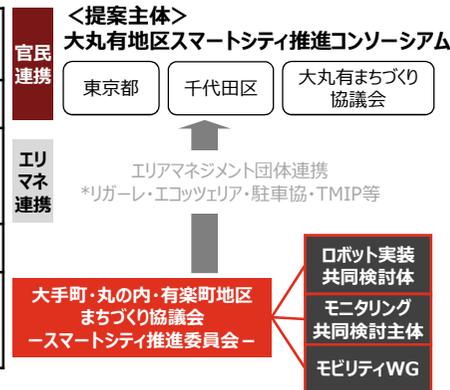
（快適かつ健康なまち、交流や偶発的な出会いの機会提供等）

- ・新モビリティ導入のあり方を整理・実証
- ・大丸有地区の通りごとの特性を捉えたモビリティネットワークの構成
- ・ウォカブル空間における歩行者やつづぐ人々を支援し共存するモビリティ（自動走行ロボット等）の導入

■都市のリ・デザインのコンセプト

体制

1	大丸有まちづくり協議会スマートシティ推進委員会	幹事、推進統括
2	三菱地所	エリア内ロボット実装に向けた共同検討主体
3	パナソニックホールディングス	エリア内ロボット実装に向けた共同検討主体 ロボット走行の企画・実証 同ロボットの走行管理
4	ゲキダンイノ	自動走行モビリティの走行の企画・実証
5	NTTデータ	スマートシティ推進委員会、都市OS関連の検討受託 モニタリング※共同検討主体



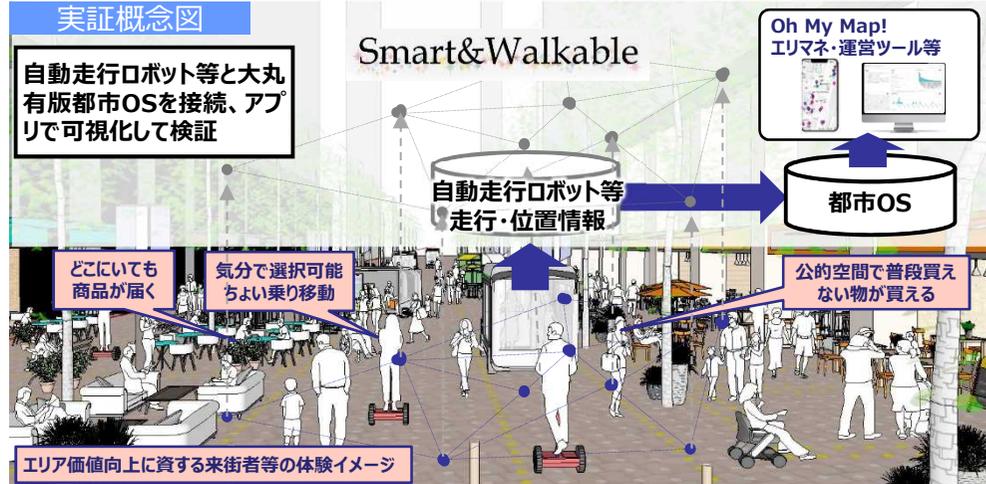
※・・・公的空間状況共通モニタリング（構想）のこと

実証内容

公的空間等を通じた街の価値向上と都市運営の高度化を実証

- ① エリアのまちづくりと連携し、複数の自動走行ロボット等が公的空間等において、まちのエリア価値向上に資するかの導入検証および多様な自動走行ロボット等の実装に向けた課題を検証
- ② 公的空間において多様かつ複数の自動走行ロボット等が走行を目指し、自動走行ロボット等の位置情報等を、都市OSの活用等を通じて可視化／モニタリングする高度な都市運営の在り方を検証

実証概念図



スケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
自動走行ロボット実証	実証フェーズ 240時間 テスト走行	実装推進	運用時期・頻度の最適化を検証しながら、適宜運用	
自由なグリーンスローモビリティ実証	実証走行 (1年目)	1年目の結果を受けて輸送力向上等の継続実証を検討	運用時期・頻度の最適化を検証しながら、適宜運用	

Smart City Takeshiba (東京都港区)

Smart City Takeshibaでは、地域の様々なデータを収集・連携し、3D都市モデル（バーチャル竹芝）でのシミュレーションや、「交通（MaaS）」、「防災」など複数分野のサービス展開モデルを構築することで、市民参加型まちづくりによる地域課題解決の実現を目指す。

目標 (KPI)

- 一元管理する情報媒体：(判断時に)確認する媒体全て※実装フェーズ
- 一斉送信可能な媒体数：(発信時に)確認する媒体全て ※実装フェーズ
- 利便性満足度：80% ※実証参加者

実行計画

竹芝地区内に設置したセンサー等の都市OSから収集されるエリア独自のデータを取り込み、3D空間で人流シミュレーション等が可能なバーチャル竹芝や、エリアマネジメント公式LINEと連携した交通(MaaS)・ソフト防災サービスを整備することで、地域活動や合意形成のツールとしてまちづくり活動に活用。

バーチャル竹芝やエリアマネジメント公式LINEを連携し、地域内データを利活用した課題解決を実現

交通サービス等に活用

エリア独自のデータを取り込む

竹芝エリア
マネジメン
ト公式
LINE



現実の竹芝

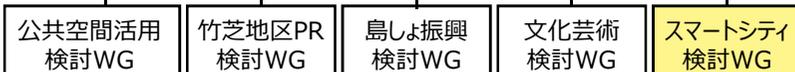
バーチャル竹芝
都市OS

回遊性データを取得

シミュレーション
結果をまちづくりに反映

体制

竹芝Marine-Gateway Minato協議会



【正会員】

- 港区
- (一社) 竹芝エリアマネジメント
- (一社) 竹芝タウンデザイン
- 東京都立芝商業高校

【準会員】

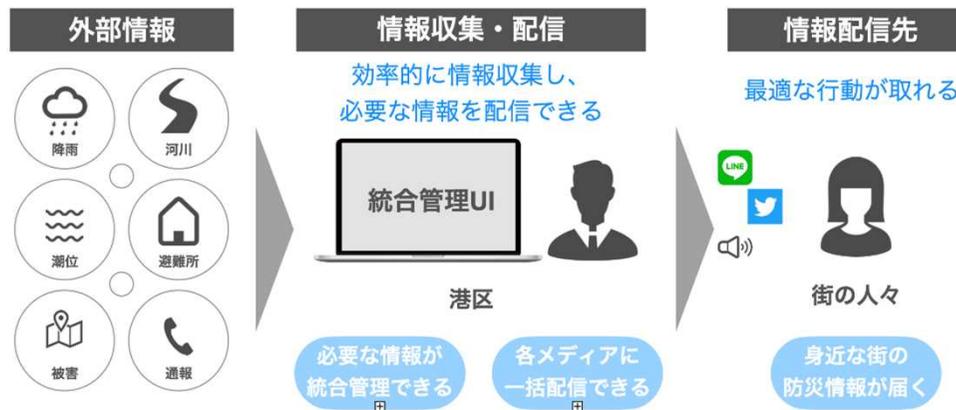
- (株) アルヘログランデ
- 鹿島建設 (株)
- (一社) CiP協議会
- ソフトバンク (株)
- 竹芝地区まちづくり協議会
- 東海汽船株式会社
- 東急不動産 (株)
- 東京ガス (株)
- (一社) 東京諸島観光連盟
- (一社) 東京諸島観光連盟小笠原村観光局
- (株) 東京レポートセンター
- 東京諸島島しょ振興公社
- 東京都島嶼町村一部事務組合

実証内容

台風・豪雨・大雪などの災害時における自治体の情報収集(判断等)の効率化およびエリマネ連携による効率的な避難誘導の効果検証を目的とした実証実験

- 実証①：降雨、水位、避難所情報等の外部「情報」や「配信機能」を1つの管理UIに統合する事で港区の情報収集(判断等)を効率化できるか
 実証②：管理UIから受け取った身近な街の防災情報の自動配信により、エリマネ団体を介した効果的な「避難誘導」が促進できるかを実証

新たなソフト防災における課題解決を実証



スケジュール

2022年度

- 管理UI構築, LINE連携
- データPF連携
- 実証実験実施

2023~24年度

- 実装
- PDCAサイクルによるサービスブラッシュアップ

2025年度

- 他エリアへの横展開

スマートシティぎふ推進プロジェクト（岐阜県岐阜市）

本格的な超高齢社会においては、健康寿命の延伸に向けた**生活習慣病の予防**が必要である。そこで、～「**健幸都市ぎふ**」出かけて**健康になるまち**～の実現のため、「**都市空間の形成**」、「**移動手段の確保**」、「**運動機会の創出**」、「**健康意識の啓発**」を取組みの柱とし、新技術やデータを活用した様々な取組みを展開する。

目標

- ・水防関係者の水防情報管理システム(仮)の満足度 70%
- ※水防関係者へアンケート調査を実施し評価

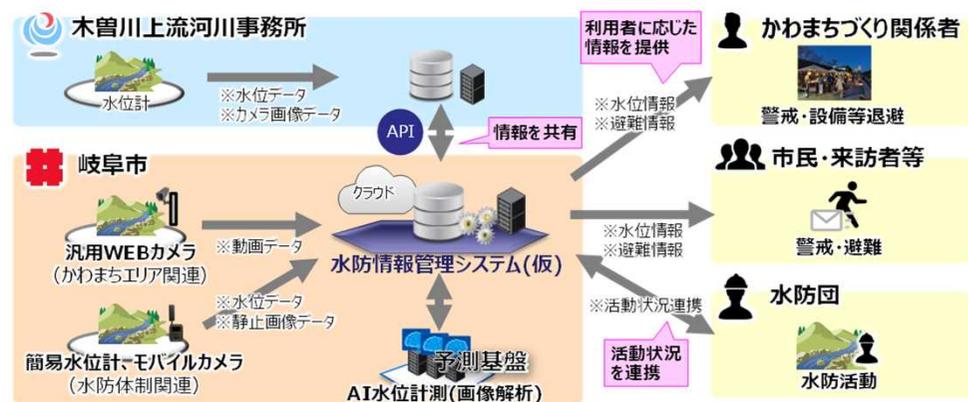
実行計画

取組みの柱である「**都市空間の形成**」、「**移動手段の確保**」、「**運動機会の創出**」、「**健康意識の啓発**」の下、交通分野、健康分野、観光分野、防災分野に関する取組みを推進する。

取組みの柱	方向性
①都市空間の形成	(Ⅰ) クアオルト健康ウォーキングの要素を取り入れた歩行空間等の形成 (Ⅱ) 回遊性促進を図る快適で連続的な方向空間等の形成 (Ⅲ) 長良川エリアの安全で魅力的な都市空間等の形成
②移動手段の確保	(Ⅰ) バスの運転業務の自動化 (Ⅱ) MaaSの導入
③運動機会の創出	(Ⅰ) クアオルト健康ウォーキングと休養・宿泊施設等が連携したヘルスツーリズムプログラムの創出と継続的なアップデート (Ⅱ) クアオルト健康ウォーキングの要素を取り入れた歩行空間等におけるウォーキングの推進
④健康意識の啓発	(Ⅰ) ウォーキング実績や身体状態の見える化による健康づくりのきっかけづくり

実証内容

市街地の広範囲が浸水区域となっており、国土交通省管理の河川水位データと連携した水防情報を管理できるシステムを構築するなど、**かわまちエリアの安全で魅力的な空間の形成と迅速かつ効率的な水防体制の構築**に向けた取組みを行う。



- 水防情報管理システム(仮)の構築
河川の水位情報や映像を集約し、市民や水防関係者に必要な情報を自動通報する**オールインワンシステム**を構築する。
- カメラ画像からのAI画像判定による水位計測
汎用WEBカメラ画像、モバイルカメラ画像から、**AI画像判定による水位**を計測する。

体制

サービス利用者 市民 来訪者 地域企業 など

推進主体

スマートシティぎふ推進コンソーシアム

運営会議

・スマートシティぎふ推進コンソーシアム
構成員全員で構成

部会

・各分野に関連する構成員で構成
・専門的な取組みの方針を検討

- 交通分野
- 健康分野
- 観光分野
- 防災分野

サービス提供者

- 行政
- サービス事業者
- 通信事業者
- 金融機関
- 大学・学術機関
- IRマネジメント団体

スケジュール

2022年までに実装

- ・健康ウォーキング
- ・MaaS
(路線バス モバイルチケット)
(デマンド型乗合タクシー)
(レンタサイクル スマート化)

2023～2025年に実装

- ・かわまちエリアの歩行空間の形成
- ・迅速かつ効率的な水防体制の構築
- ・バス運転業務の自動化
- ・MaaS(路線バス 10カード)、(民間型乗合サービス)
- ・ヘルスツーリズムプログラム
- ・ウェアラブル端末等を活用したウォーキング
- ・スマホ、PHRを活用した健康指導

2026年以降実装

- ・回遊を促進する歩行空間
- ・MaaS
(顔認証決済システム)

既存アプリとの連携等による拠点施設からまちなかへ人流波及効果検証事業(愛知県岡崎市)

官民連携による「楽しい・快適・安全なウォカブルシティ」の構築に向けたセンシングデータ等を活用したまちづくりにおいて、**既存アプリとの連携等を通じた更なるデータ連携により来街者や市民の回遊を誘導する情報提供を行うとともに、まちづくりにおけるデータ活用手法に関する検討を実施**する。

目標 (KPI)

- ・拠点からまちなかへの誘導率 25%(2025年)
- ・歩道空間活用出店者の申請処理件数 30件(2022年)

実行計画

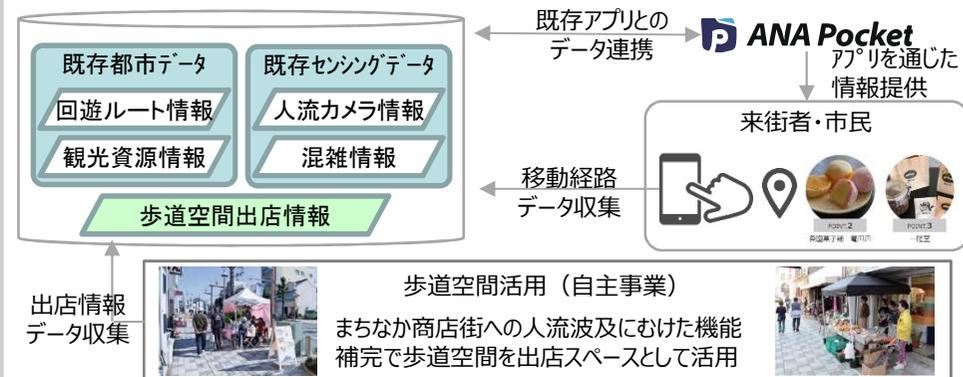
ウォカブルシティ構築にむけた公共空間の整備・活用に合わせてスマート技術の導入を着実に推進し、各拠点やまちなか商店街におけるにぎわい創出を図る。



実証内容

①回遊誘導実証

既存の都市データに加え、歩道空間活用事業の出店情報や既存アプリから取得したデータを連携し、来街者や市民の回遊を誘導するような情報発信について検証を行う。



②データ活用検討実証

①を通じて得られた情報を元に、歩道空間への出店の最適化や地域商業者のデータ活用支援など、データの活用方法について検証を行う。



体制

岡崎スマートコミュニティ推進協議会

岡崎市 デジタル推進課
企画課
都市施設課
商工労政課
観光推進課

日本工営株式会社

NTT西日本株式会社

アドバイザー：名古屋大学 遠藤准教授

スケジュール

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	地域データ利活用実装		
本事業実証	都市OS検討・構築		社会実装

交通結節点のスマート化によるにぎわいのある安心安全なまちづくり(愛知県春日井市)

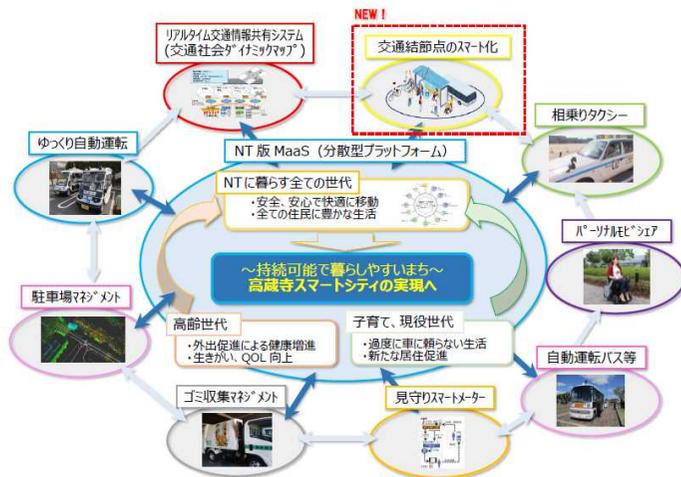
高蔵寺ニュータウン (NT) において新たな交通システムの社会実装を進めてきたが、**新たに交通結節点に交通・商業・防災情報を発信するモビリティポートを設置し公共交通の利用促進を図るとともに、にぎわいづくりや安全安心なまちづくりに向けた実証事業を進める。**

目標 (KPI) (2022年度値)

ゆっくり自動運転/AIオンデマンド乗合サービス
 利用数: **1,550件**
 移動の選択肢数 (試験運行含む) : **6件**

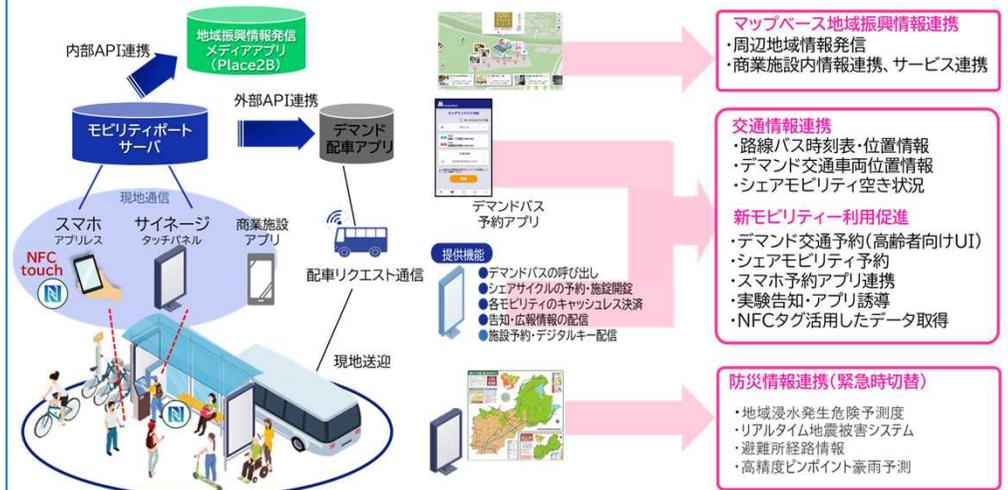
実行計画

成熟した資産を活かしつつ、新たなモビリティサービスの導入などにより、新たな若い世代への居住促進と全ての住民への安らぎを提供し続けることで、持続可能で暮らしやすいまちの実現を目指す。



実証内容

地域の交通結節点に多様なモビリティサービスに関する情報を提供するモビリティポートを設置し、併せてSNSと連動した地域商業情報の発信を行い、スムーズな移動や周辺回遊性向上を確認する。また緊急時の防災情報提供について検証を実施する。



体制

プロジェクト推進主体:

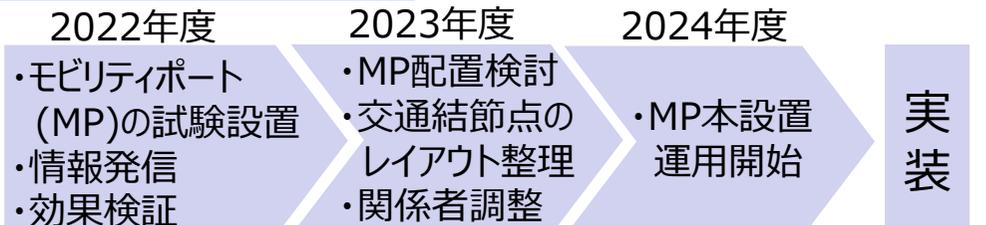
高蔵寺スマートシティ推進検討会
 (未来技術地域実装協議会専門部会)

春日井市未来技術
 地域実装協議会



各省庁構成員
 国土交通省、厚生労働省、総務省、経済産業省、警察庁、文部科学省
企業等構成員
 NEC、名鉄協商、KDDI総合研究所、アイサンテクノロジー、高蔵寺まちづくり、名鉄バス、タクシー組合、愛知県、愛知県警察本部

スケジュール



デジタルツインを活用した避難誘導による行動変容検証事業（京都府精華・西木津地区）

デジタルツイン上で再現した洪水・浸水情報、人流情報、リアルタイムで検知したセンサー情報、被災者位置情報、避難所情報（緯度経度・階数・収容人数など）をもとに、避難誘導アプリを介した最適な避難先と現在地からの経路の表示を行い、本格フィールド実証（防災避難訓練）にて住民の避難行動における効果検証を図る。

目標（KPI）

避難訓練参加者アンケートにてソリューションに有用性があると回答する人の割合70%以上

実行計画

- 誰もが安心・安全に暮らせる都市を目標に、AIオンデマンドバス等の導入を推進するほか、デジタルツイン×防災の取組を2021年度より段階的に推進。



実証内容

本格フィールド実証（防災避難訓練）において避難誘導の効果検証を実施

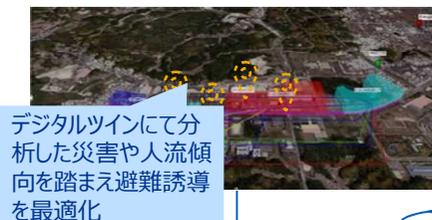
サイバー空間

- 都市OSを介してシミュレーションの結果と避難誘導アプリを連携

フィジカル空間

- 位置・属性を踏まえたパーソナライズ通知／位置情報に応じた誘導等

けいはんなデジタルツイン



避難誘導アプリ



センサーを設置し、検知情報も活用

都市OS

都市OS上でデータを一元的に管理

災害データ

人流データ

避難所データ

体制

本事業実施体制

申請主体

スマートけいはんなプロジェクト推進協議会

京都府

代表
一般社団法人
京都スマートシティ推進協議会

グッソー・システムズ株式会社

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

スケジュール

2022年度

2023年度

2024年度～

フィールド実証

サービス拡充

社会実装

防災訓練プログラム開発
土砂災害データ・センサー追加

実証

結果検証・とりまとめ

より迅速な避難誘導／
その他サービスとの連携検討

位置情報活用の有効性及び貢献ポイントによる来街者の行動変容に向けた実証事業(大阪府大阪市)

ターミナル立地の広大な都市公園を有するうめきた2期地区において、エリア価値の向上と高効率な維持管理・運営の実現に向けて、様々な事業者における位置情報活用の有効性及び貢献ポイントによる来街者の行動変容に関する効果の検証を行う。

目標 (KPI)

- QOL向上：アプリ利用者数など
- マネジメント高度化：建物・公園管理の省人・省コスト効果など
- 事業創出：街区で取得したデータの利活用を通して生まれるプロジェクト数など

実行計画

最先端技術の実証や導入を行いやすいグリーンフィールドとしての特性を活かし、多様なデータの利活用による「事業創出」「市民のQOL向上」「マネジメントの高度化」に資する施策に官民の枠を超えて取り組む。

事業創出

市民のQOL向上

マネジメント高度化

うめきた2期地区

ターミナル駅への隣接性及び巨大な「みどり」を活かした先進的・将来的・汎用的なスマートシティ施策

夢洲地区



実証内容

行動情報等を用いた高度なエリアマネジメントの実現及び継続的なビジネスモデル確立に向けた検証

① 人流の可視化・利活用検討

高精細な人流データ収集 (IoTセンサー、GPS)

分析・可視化

- | 来訪者理解 | 施設人流理解 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 人数×属性分布 • 居住地・勤務地 • 行動特性 等 | <ul style="list-style-type: none"> • 混雑 • 回遊 • 来訪交通手段 |

関連事業者との有効性協議

- | | |
|--------|-----------|
| 施設運営者 | エリアマネ団体 |
| 商業テナント | その他 (行政等) |

② 行動変容施策と効果の検証

貢献ポイントによる施策展開

- アプリ配布 QRコード 「貢献」活動参加によるポイント付与
-
- ボランティア
 - イベント参加
 - 健康増進活動 等
- 来街者
就労者

効果検証

- 各種活動データ ポイントの交換可否等による効果検証

体制

うめきた2期地区等スマートシティ形成協議会

代表事務局：大阪市

(事務局：大阪市・都市再生機構・三菱地所)

うめきた2期地区分科会

(三菱地所(株)を代表とするグループ*、大阪府、大阪市、都市再生機構、JR西日本)

夢洲地区分科会

(大阪府、大阪市、Osaka Metro、JR西日本)

*三菱地所株式会社を代表とするグループ：
三菱地所、大阪ガス都市開発、オリックス不動産、関電不動産開発、積水ハウス、竹中工務店、阪急電鉄、三菱地所レジデンス、うめきた開発特定目的会社

スケジュール

2022年度

- 実証実験
- とりまとめ・評価

2023年度

- 実装に向けた詳細検討
アプリ/貢献ポイント
管理システム開発、
IoTセンサー導入、等

2024年度～

- 実装予定
※うめきた2期地区一部先行まちびらき
予定 (夏頃)

観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化学業（和歌山県すさみ町）

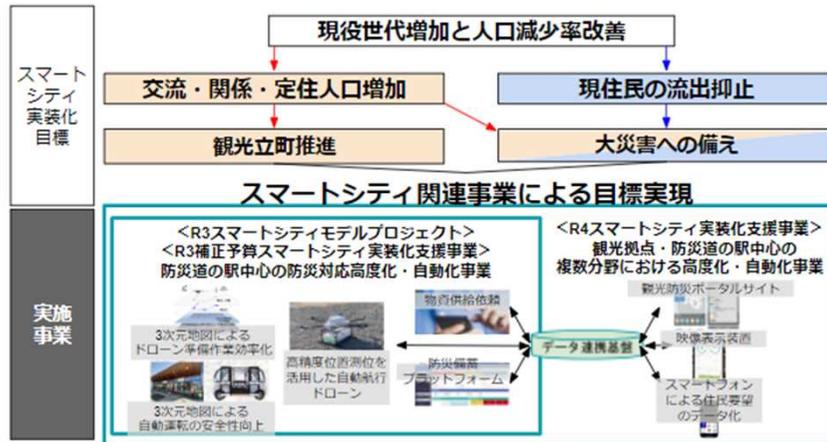
・南海トラフ地震や大雨等のリスク、高齢化・人口減の人手不足、災害発生前後の観光客への情報発信等の課題解決のため、**3DMAPやドローン等の活用、ポータル等による的確な情報発信**を行うことにより、**安心安全で快適な町づくりを推進**。また、この技術を観光分野でも活用し、**ワーケーション利用者へのPR、地域事業者向けのマーケティングデータとして活用**。

目標（KPI）

- ・観光かつ防災ポータルサイト環境構築と試験
- ・3次元地図とドローンでのレーザー測定の差分による道路上の障害物や異常検知精度分析
- ・物資輸送/インフラ点検要望データ化アプリケーション構築

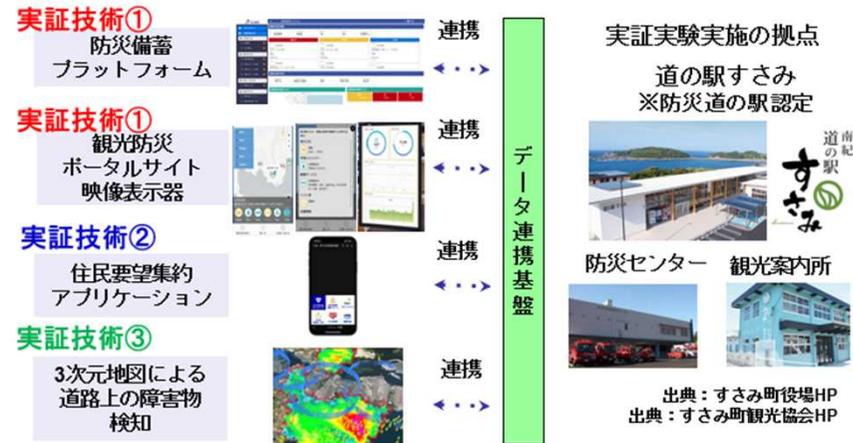
実行計画

スマートシティ実装化への取組みにより、観光分野における「観光立町推進」、防災分野における「大災害への備え」を、ICT技術を活用したデジタル化・自動化・効率化により推進する。

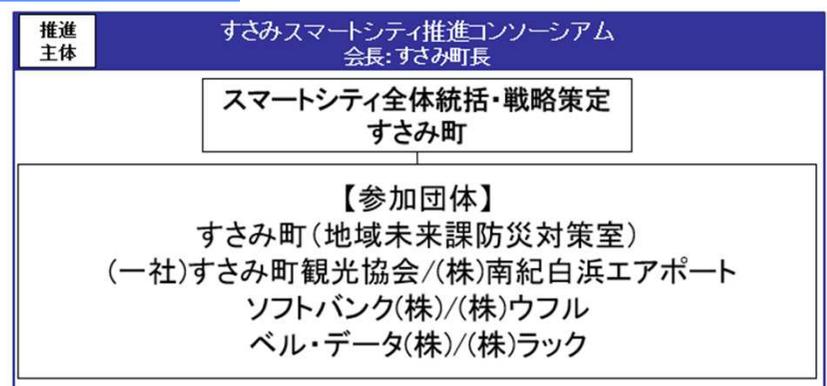


実証内容

- 実証技術①**：観光防災ポータル等で、**平時は観光情報やアクティビティ情報を、緊急時には防災ポータル情報**を、各種サービスとデータ連携された状態で稼働可能なテストポータルサイトを構築
- 実証技術②**：スマートフォン物資輸送/インフラ点検要望をデータ化しドローン配送や点検を実施
- 実証技術③**：ドローンによるレーザー測量とドローンシミュレーション用に準備した**3次元地図を比較し、一般車両及び自動運転車の妨げとなる道路上の障害物や異常検知精度検証**を実施



体制 ・すさみスマートシティ推進コンソーシアムにて推進



スケジュール

・2025年実装を目指し事業を推進

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
スマートシティ関連事業					
防災道の駅中心の防災対応高度化・自動化学業		○令和3年度取組み実績/見連携 【防災分野】実証実験			
観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化学業		【防災分野】実証実験 【観光分野】実証実験	商用開発	商用開発	社会実装
データ連携基盤		基本設計/試験環境構築	実証、基盤構築		社会実装

松山スマートシティプロジェクト(愛媛県松山市)

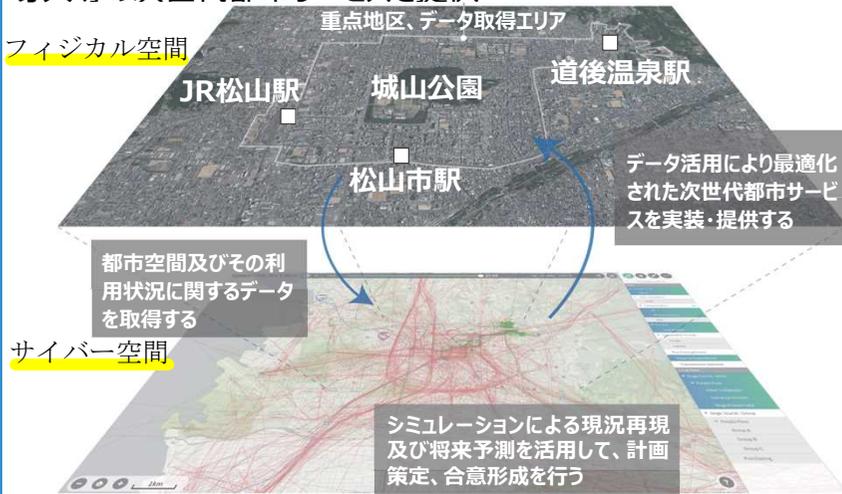
データに基づいて都市マネジメントを行う「データ駆動型都市プランニング」を実装。様々な都市データの組み合わせにより、歩いて暮らせるまちづくりのほか、健康増進、地域活性化など複数課題の解決を目指す。

目標 (KPI)

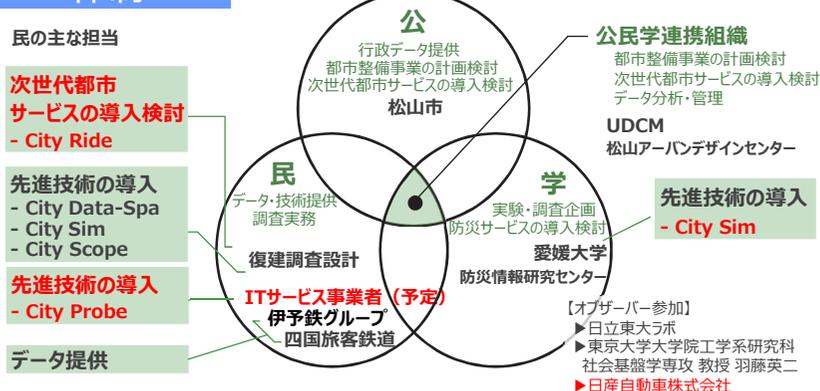
- ・ 滞在時間 0.5時間増 (2030年度)
- ・ 歩行距離 0.5km増 (2030年度)
- ・ 遅い交通分担率 5%増 (2030年度)

実行計画

様々な交通データ等の集約やシミュレーションによるデータ駆動型都市プランニングの実装により、都市空間改変、次世代モビリティ導入等の次世代都市サービスを提供



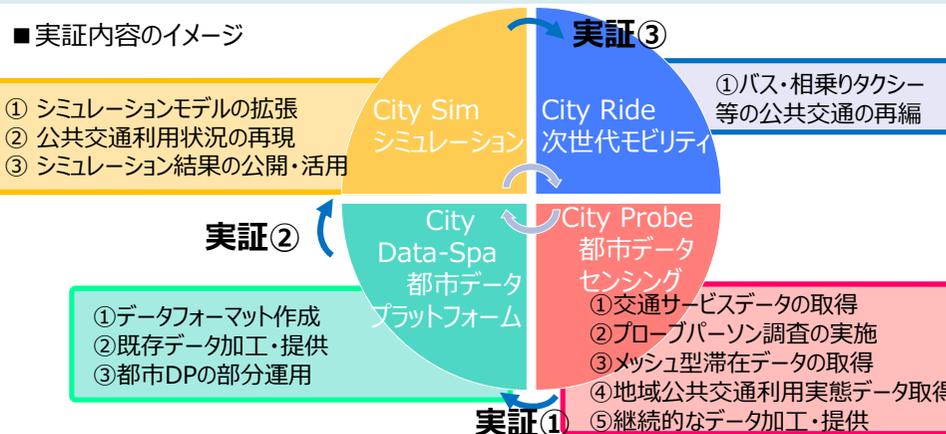
体制



実証内容

- 実証①：地域交通に関する様々なデータを収集・統合し、データプラットフォーム (City Data-Spa) 上でのAPI連携やセキュリティ対策が実施可能かを検証
- 実証②：データプラットフォーム上のデータを活用した地域交通に関するシミュレーションの実施可能性について検証
- 実証③：地域交通に関するシミュレーションに基づく、バス交通のダイヤ改正等の地域公共交通のデータに基づく再編方策の検討

■実証内容のイメージ



スケジュール

- 2022年度
○都市データプラットフォーム
・都市データプラットフォーム構築・運用
○シミュレーションモデル拡張・現況再現
- 2023-24年度
○次世代モビリティサービス
運行実験
・サービス提供に活用
・道路維持管理への活用検証
・KPI測定・評価スキーム構築検討
- 2025年度実装
○次世代都市サービス
・モビリティハブの設置への活用
・モビリティサービス導入
・道路維持管理への活用
・KPI評価実現

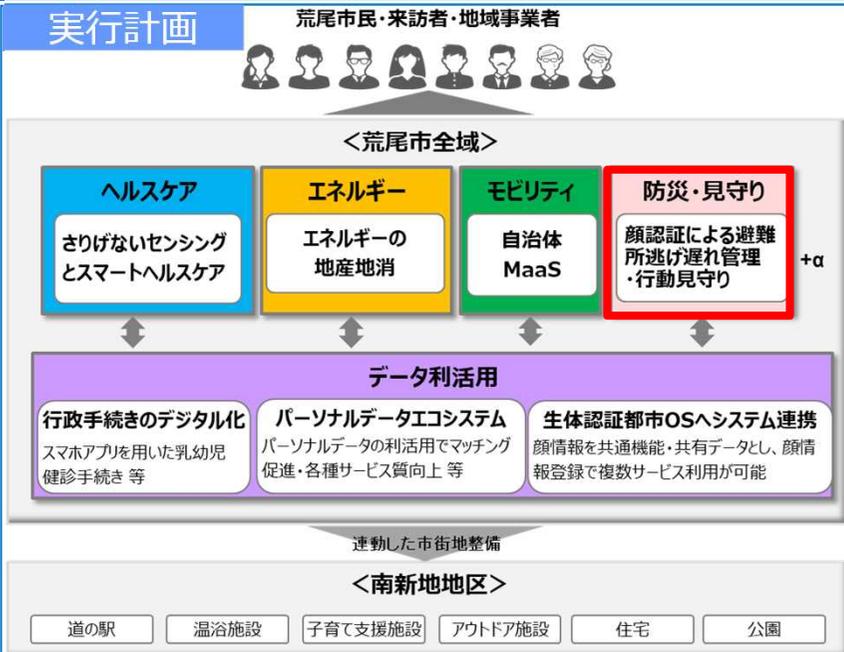
荒尾ウェルビーイングスマートシティ（防災セキュリティ見守り分野）（熊本県荒尾市）

・マンパワー不足等の荒尾市の社会課題も踏まえ、近年増加する自然災害や登下校途中の見守りに対応した安全安心なまちづくりに繋がるシステムの構築を目指す。
 ・具体的には、R4年度行った実証実験（PoC/PoT）を踏まえ、R5年度早期に社会実装するための運用及びビジネススキームを具体化するため、「顔認証システム」を使った避難所での受付や児童登下校見守りなどを中心とした実証実験を実施する。

目標（KPI）

荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合
 [R3：73.5%] → [R7：80%]

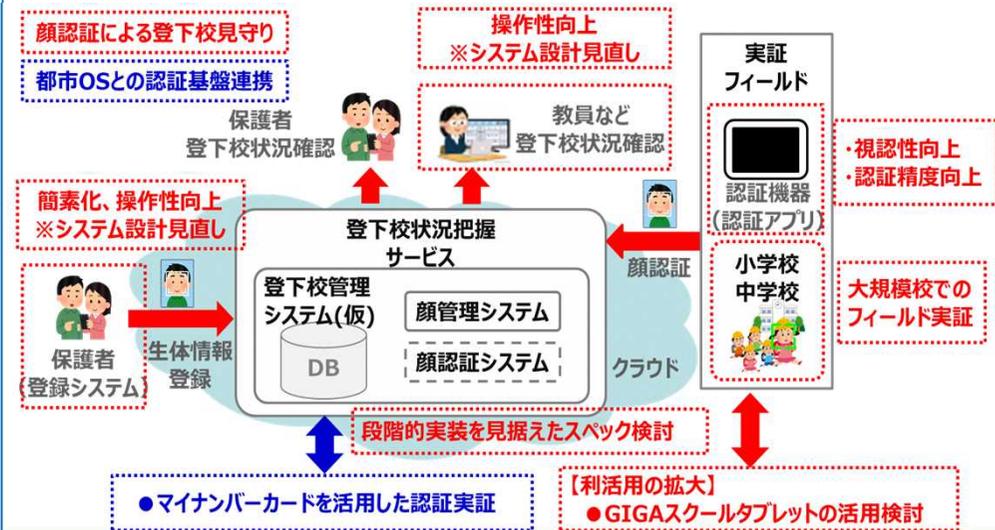
実行計画



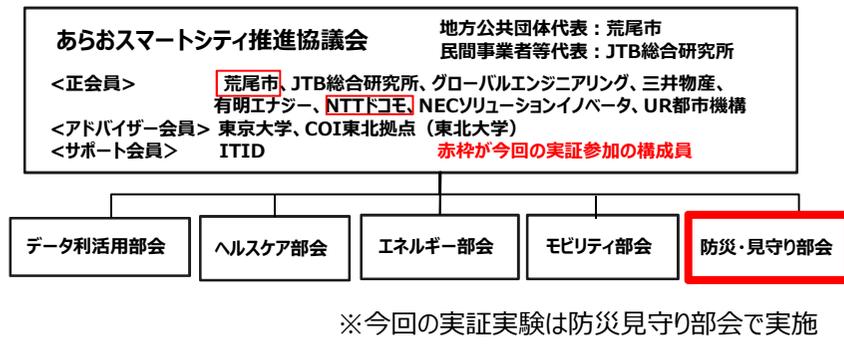
実行計画内の防災・見守り分野において、早期実装に向けた検証を行う

実証内容

過年度の実証結果を踏まえ、顔認証による見守りサービスの早期実装を図るため、フィールド実証及びビジネスモデル検証を実施する。また、様々なサービス利用時の認証手段としてマイナンバーカード活用に関する有効性の検証も実施する。



体制



スケジュール

	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
防災・見守り	実証実験 (防災) 課題抽出・改善検討 実証結果分析	実証実験 (見守り) 見守りサービス実装に向けた 課題整理、システム改修 ① システム改修 ② ビジネスモデル検討に向けた調査 (J-LISカードAP搭載システムとの連携等)	見守りサービス 段階的に 実装・運営 顔認証/顔管理機能のデータ連携基盤、 都市OSへ組み込み実装	見守りサービス 本格運営